



熊本県地域医療支援機構

(熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県と県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して運営を行っています。当機構では、本県における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関の医師を確保するため、様々な支援事業を実施しております。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業において活動の縮小を余儀なくされた面もありました。しかしながら、熊本県医師確保計画(令和2年度～5年度)に基づき、医師修学貸与学生及び地域で勤務する医師が、地域で安心して勤務しながらキャリアを形成できるよう、一人一人に対するきめ細やかな支援を行うための体制の強化を図る観点から、コロナ禍にあっても熊本県から業務を委託された事業については、熊本大学病院が県と協力し、着実な事業の実施に努めてまいりました。特に面談・相談業務やセミナー等においてウェブ会議システムを活用して移動制限の影響の最小化と効果的かつ効果的な相談業務の充実を図るとともに、地域の医療機関における取り組みや地域医療の重要性を多くの人に理解いただくために新たに広報誌を発行するなど啓発活動の充実にも努めたところです。

また、専門研修に進む卒業後3年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前に知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築し、キャリア支援の充実強化を図りました。さらには、総合診療医育成のため、令和3年度から河浦病院に総合診療の新たな教育拠点を設置し、指導医を派遣することで天草市病院事業部と行為が成立し、3年度から活動することとなりました。

その他、女性医師キャリア支援においても地域を回り、地域医療に携わる女性医師と面談する中で、多くの課題や悩みを把握し、適切にかつ必要な助言を行いました。

【主な取り組み】

- ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援
(一人ひとりの状況に応じた助言、相談対応等)
- ② 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等の医師不足状況等の把握・分析、地域で必要とされる医師に関する情報提供等
- ③ 貸与医師及び貸与学生全員に面談時に貸与制度及びキャリア形成プログラムの周知徹底
- ④ 医師が不足する医療機関への診療支援・研修医等教育支援
- ⑤ 地域で必要とされる総合診療医の育成方策に関する検討
- ⑥ 女性医師のキャリア支援(就業継続及び復職支援等)
- ⑦ 地域医療支援機構講演会開催
- ⑧ 地域医療支援機構広報誌「COCODE ! (ココデ)」の発行

2. 活動報告

① 県内における医師不足の状況などの把握・分析

◆ 熊本県医師就学資金貸与条例の知事指定病院等の調査

1. 知事指定病院等の状況調査実施要領

熊本県医師就学資金貸与医師については、「熊本県医師就学資金貸与医師の勤務等に関する要綱」第2条に規定する知事が指定する病院及び診療所(指定病院等)に一定期間勤務することになる。また、その際、貸与医師は同要綱第3条及び第4条に定められた指定病院等にローテーションに基づき勤務することになる。

また、熊本県医師就学資金貸与医師については、熊本県地域医療支援機構では本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに上記ルールに沿った勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっている。

そのため、勤務先となる、知事指定病院等の医師の充足状況や労働環境、教育指導体制等がどのような状況かを機構としても承知しておく必要がある。また、本人が勤務する医療機関の選択における判断に資するためにも、情報を把握しておく必要がある。

そこで、昨年度(令和元年11月)に調査を実施したところであるが、本年度においても、知事指定病院等の勤務医師数、勤務条件、教育指導体制等について調査を行うこととしている。

【実施主体】

熊本県地域医療支援機構

【調査対象】

知事指定病院(31病院)、知事指定診療所(4診療所)

【調査方法】

調査票及び回答用紙を病院担当者へメールで送付し、回答後に地域医療支援機構のメールアドレス宛に返信することで回答とする。

【調査内容】

医療機関の概要、労働環境、福利厚生、教育・指導体制、医師の充足状況

【調査スケジュール】

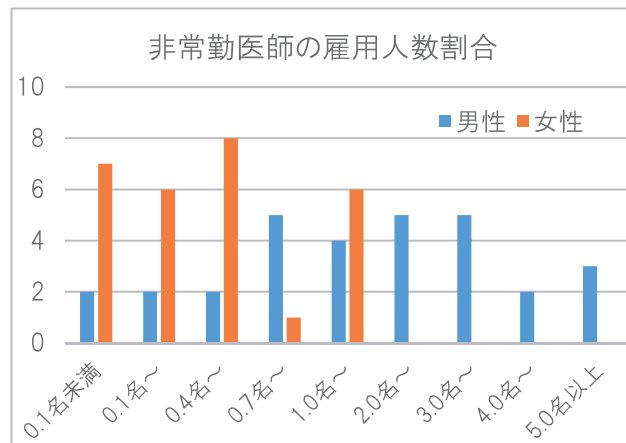
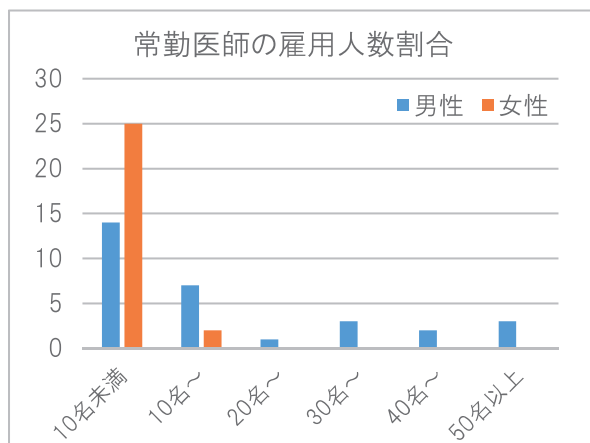
8月中旬 調査票発送、 9月上旬 とりまとめ・分析、 10月以降 対象者への情報提供

※なお、調査資料については、熊本県医師就学資金貸与医師キャリア支援のために使用し、熊本大学の情報公開及び個人情報に関する規定に基づき、回答者の不利益になる内容の外部への公開はしない。

2. 調査結果

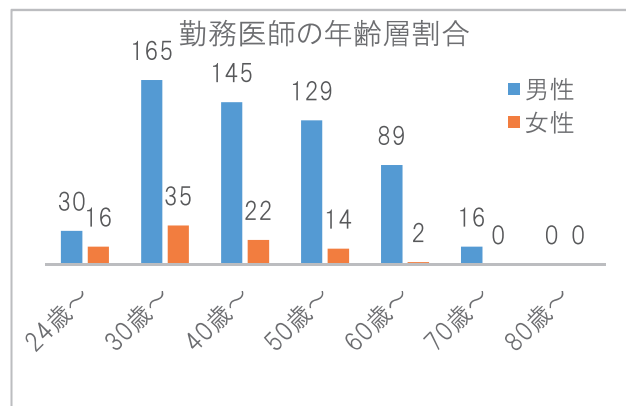
(1) 病院の概要

○ 医師の雇用状況



医師の雇用状況については、常勤医師では回答のあった全30病院で男性医師が勤務しているが、女性医師では10名未満の病院が半数以上を占めている。また、なかには小数の医師で複数の診療科を兼任しているという回答もあった。

勤務医師を年齢層別にみると、24歳から29歳まででは男性医師30名、女性医師16名と若手医師は少ないようであるが、男女ともに30歳代が最も多く、男性医師では病院全体で165名の医師が勤務している。また、70歳代で勤務している男性医師は16名という結果であった。



(2) 勤務環境

○ 当直交代制勤務について

当直体制について、1日あたりの宿直状況では「全て常勤医師で対応している」病院は6件、「応援を依頼している」病院は20件であった。また、1日あたりの日直状況では「全て常勤医師で対応している」病院は10件、「応援を依頼している」病院は19件と、全体の約6～7割の病院が常勤医だけの対応が難しい状況にある。

常勤医師1人あたりの月間平均当直回数については、月1～4回の病院が約7割、月5～9回の病院は2割、なお月10回以上となっている病院が1件であった。また、当直翌日の医師の勤務状況では、翌日を「休日としている」病院は無く、「通常勤務」としている病院が8件、「勤務内容を配慮している」が17件であった。

その他の対応状況としては、「当直翌日が平日の場合、勤務免除」や半休取得や早退を可能としている、外来診療を免除している等の対応を行っている。

常勤医1人当たり月間当直回数	件数
月1～4回	21
月5～9回	7
月10回以上	1

(3) 待遇・福利厚生

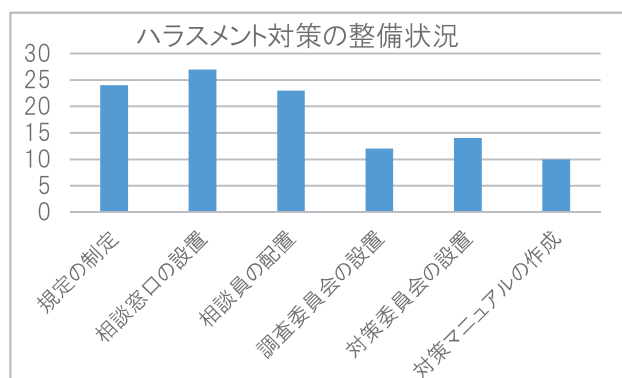
○ 住環境について

勤務医師への住環境の提供については、「家賃を伴う所有医師住宅」の提供17件、「家賃を伴う借上げ医師住宅」9件、「住宅補助制度」の利用が可能な病院が17件という結果であった。住居となる建物の提供が難しい医療機関は補助などで対応していることが窺える。

○ ハラスメント対策の整備状況

規定を制定している病院は24件、相談窓口の設置は27件、相談員の配置は23件と半数以上の病院で整備されているようである。

また、その他にも、全職員を対象とした研修の実施や、ハラスメント対策相談窓口を設置し調査及び対策を行うとしている等、多くの病院でハラスメント(パワハラ、セクハラ等)の発生、再発防止等に向けた対応策を整えている。



○ 子育て環境

<保育環境について>

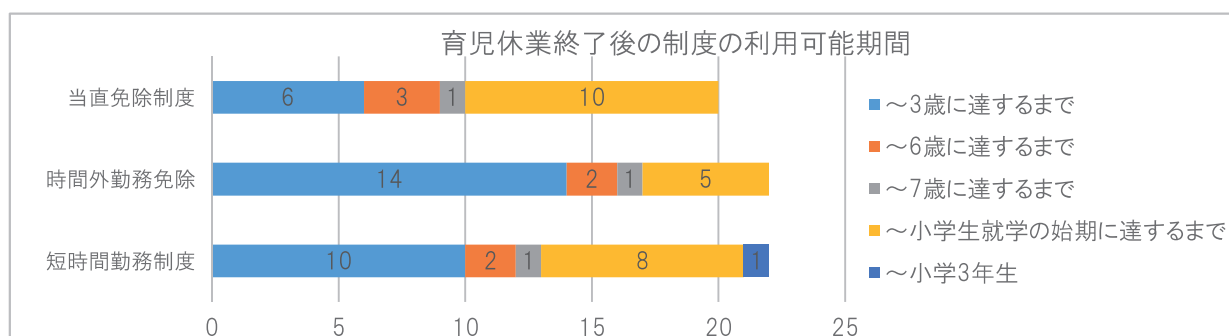
院内保育制度を設けている病院は6件、院内病児保育制度では3件であった。また、なかには、保育援助を必要としている人と、保育援助を行いたい人たちによる組織をつくり、相互援助活動に取り組んでいるという病院もあった。

<当直免除制度/時間外勤務制度/短時間勤務制度の利用について>

女性医師の妊娠期間中の制度利用については、当直免除制度の利用可能と回答した病院は24件、時間外勤務免除制度では25件、短時間勤務制度は19件、その他「具体的な制度はないが適宜対応する」という病院もあった。

また、制度の利用が可能のほか、[業務の軽減、通勤緩和、妊産婦等にかかる危険有害業務の就業制限、妊産婦の保健指導、健康診査等の対応も行っているという病院もあった。

育児休業の取得期間を終えた医師が育児支援を利用できる期間については、多くの病院が未就学児の期間(～3歳に達するまで、～6歳に達するまで、～小学校の始期に達するまで)と定めている。また、なかには7歳に達するまでの期間や、小学3学年終了前までの期間の利用を認めているという病院もあった。その他では各制度について医師が必要と認めた期間を提供するという病院もあった。



(4) 教育・指導体制

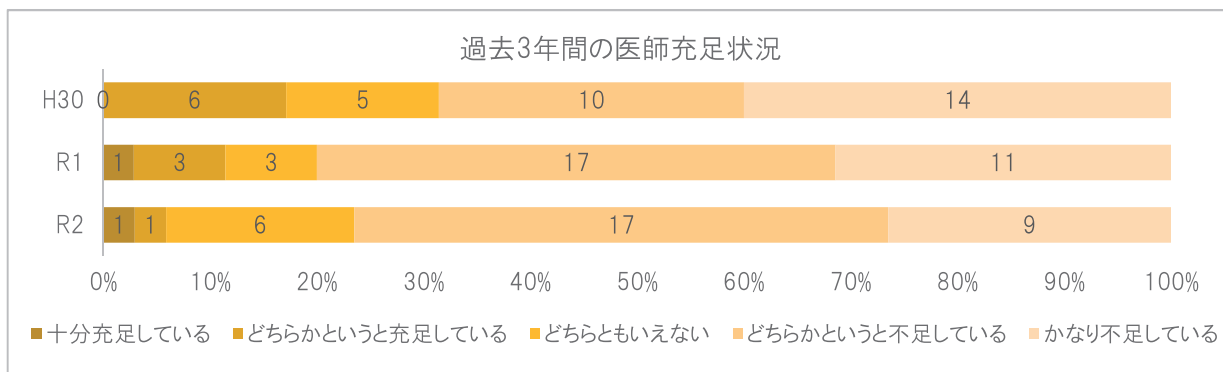
○ 医師の学会・研修会等の参加時の支援

医師の学会や研修会等への参加に対する支援の状況をみると、参加を勤務扱いとする病院は23件、出張に係る旅費を補助している病院は27件、また、病院の規定によるものや、医師が演題発表等を行う際には参加費の補助も行っている病院も診られた。

○ 研修医・専攻医の受入

令和1年度の専攻医の受入状況では、熊本大学病院からの受入は11件(受入人数は37名)、熊本大学病院以外からでは4件(11名)であった。また、過去5年間の熊本大学病院からの受入状況については、17件の病院が行っており総計223名の受入が行われた。

(5) 医師の充足状況



医師の充足状況(診療所を含む)については、過去2年(令和1年度、平成30年度)の調査結果と比較すると、「かなり不足している」と回答した病院は、平成30年度では14件、令和1年度では11件であったが、今回の調査では9件と減少がみられる。また、「どちらかというと不足している」と回答した病院は前回から変化が見られない。

一方、「どちらかというと充足している」と回答した病院は平成30年度では5件であったが、令和1年度では3件、そして今回は1件と年々減少している。

また、医師が不足している診療科及び不足医師数については、30病院中25病院で医師が不足している診療科があるとの回答であった。そのうち、16病院で標榜診療科には掲げていない診療科についても医師が不足していると回答している。

○ 医師確保の方法

不足している医師をどのようにして確保しているかという問いに対しては、大学医局からの医師派遣に頼っている病院が多くみられる。また、その他では下記のような方法により医師の確保を行っている。

- ・熊本県ドクターバンクへの登録
- ・医師会会員からの紹介
- ・他病院(熊本大学病院以外)からの派遣
- ・研修医の受入
- ・医師の人脈(個人的つながりや、医師間での紹介等)

確保方法	件数
大学医局からの派遣	28
ホームページ等による公募	20
医師人材斡旋業者の利用	15
県からの派遣	13
その他	7

II 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

熊本大学病院においては「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が複数の地域の医療施設にて下表のとおり非常勤での診療支援を行いました。

➤ 大学病院、総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	松井
			谷口(奇数週)	

➤ 外来診療支援

後藤	2020.04～2021.03 公立玉名中央病院(週1回)
高柳	2020.04～2021.03 御所浦診療所(週1回)
	2020.04～2021.03 小国公立病院(週1回)

Ⅲ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務できるシステムの構築に向けた取組み状況

○ 地域医療・総合診療実践学寄附講座の新たな教育拠点の設置

平成31年4月に天草地域医療センターに設置した天草教育拠点については、地域医療・総合診療実践学寄附講座から派遣した教員2人が専攻医・研修医の指導とともに地域医療及び総合診療に関する学生の臨床実習の指導を行っています。

◆ 遠隔診療・教育支援システム(テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等)の構築支援

1. テレビ会議システム

熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、令和2年度は国保水俣市立総合医療センター1ヵ所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。

また、週に1度テレビ会議システムを利用しWeb合同カンファレンスを開催しました。

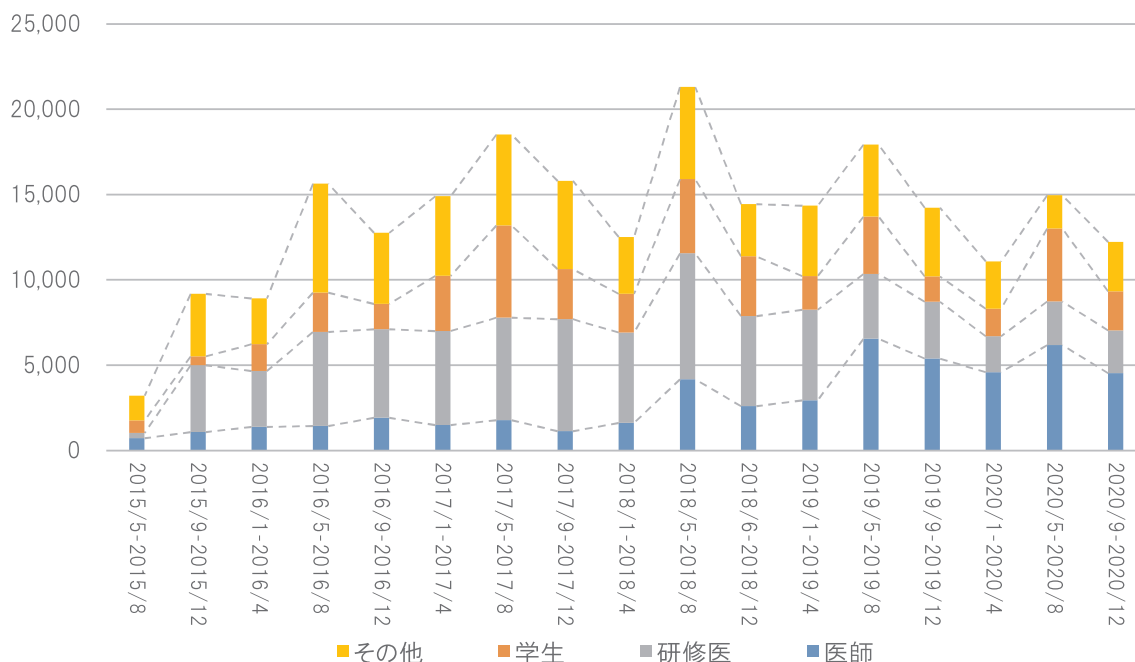
設置年度	設置場所
平成28年度	・御所浦診療所 ・湯島へき地診療所 ・そよう病院
平成29年度	・小国公立病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院
平成30年度	・河浦病院 ・阿蘇医療センター ・人吉医療センター
令和元年度	・栖本病院 ・新和病院
令和2年度	・国保水俣市立総合医療センター

2. 学習・診療支援オンラインツール

令和2年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等8名に交付し、交付者は累計で177名になりました。

また、特別臨床実習(クリクラ)を受けた76名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

▼ 学習・診療支援オンラインツール利用状況(2015年3月に導入以来、4ヶ月毎に集計)



Ⅳ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

- 「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成プログラムの作成に当たって、各診療科において貸与医師が義務を果たしながらキャリア形成を図ることができるよう、県と協力して各医局との調整を行いました。また、キャリア形成プログラム周知のため、地域医療支援機構ホームページにキャリア形成プログラムを掲載するとともに貸与医師及び貸与学生全員に面談時にプログラムの周知を図るとともに、説明会(令和2年7月と令和3年2月)を実施しました。

2. 天草市立河浦病院内に地域医療・総合診療実践学寄附講座河浦教育拠点を設置検討

- 地域において求められる医療を提供しつつ総合診療医を養成するため、天草市と協議を行い、天草市立河浦病院内に令和3年4月に河浦教育拠点を設置することとなりました。本寄附講座から教員を派遣し、医師の育成・学生の教育を行うこととしています。

3. 新しいキャリア支援策の提案

- 初期臨床研修を終了した貸与医師のうち希望者に対して、専門研修プログラムへの従事に先行して、第2グループの病院で総合診療に従事し、義務を償還する「特別研修プログラム」を創設しました。

4. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

修学資金貸与医師への面談を通して将来のキャリア形成について、今後の勤務先の選定等についてアドバイスをを行いました。

- 医師については卒後1～6年次医師等42名を対象として、令和2年7月～8月の間で、現在のキャリアと今後のキャリア形成をどうするのか、また、来年度の勤務先をどこにするのか等についての面談を実施しました。
- 学生については1年生～6年生40名を対象として、令和2年5月～6月の間で、現在の学業の課題や生活上の問題等について面談を実施しました。6年生にはさらに初期研修の希望先病院等について面談しました。

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における配置ルールづくり

貸与医師が選択した全ての診療科において、キャリア形成プログラムに基づきできるだけ早期に義務年限の償還が果たせるよう各診療科とも協議しながら配置を進めていくこととしています。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、来年度から臨床研修予定の5名全員が県内の研修病院にマッチングしました。

また、令和2年6月から7月までウェブで配信された「熊本大学病院群卒後臨床研修プログラム説明会及び専門医プログラム説明会」に参加し、総合診療科を目指す学生の掘り起こしに努めました。

2. 総合診療専門医専門研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。また、令和2年7月23日～8月30日までウェブで開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で、総合診療専門医研修プログラムの紹介をしました。さらに、同じくウェブで開催された熊本大学病院専門研修説明会の周知、また、7月31日と10月9日の2回で熊本大学病院所属の臨床研修医を対象に総合診療専門研修プログラム説明会を開催しました。

3. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学病院に1名が登録されました。

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について、熊本大学医学部新1年生(修学資金貸与学生)に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。

さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを交付しました。

▼熊本県医師修学資金貸与数一覧(令和3年3月現在)
 在学生40名／初期研修医19名／後期研修又は地域で勤務する医師23名
 男女比は全体で6：4

区分	年数	地域枠	一般枠	県外枠	計
後期研修/ 地域勤務	6年目	-	3	-	3
	5年目	4	1	-	5
	4年目	4	4	-	8
	3年目	5	2	0	7
臨床研修	2年目	5	4	0	9
	1年目	4	6	0	10
在学生	6年目	6	0	0	6
	5年目	7	3	1	11
	4年目	5	1	0	6
	3年目	5	1	-	6
	2年目	5	0	1	6
	1年目	5	0	0	5
合計		55	25	2	82

◆ 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け、相談窓口を設置しています。また、地域の医療機関で働いている医師修学資金貸与医師の活動レポートの掲載や、イベントの告知及びその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミなどの機会に医学生からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体等に対しても相談対応を行いました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンを発行しました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取組みを広く周知することで理解と協力を求める。
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す。
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師および医療関係者に対し、取組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県医師会及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本県出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者等

<発信状況>

2020年4月から2021年3月までの間で、約760名の登録者に対し3回、熊本県地域医療支援機構の取組み等を発信しました。



2020/11/17

Vol.47 「令和2年度熊本県地域医療支援機構講演会」開催のお知らせ。



2020/12/21

Vol.48 「医学生・研修医などをサポートするための会」セミナー開催のお知らせ



2021/01/04

Vol.49 「令和2年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ

◆ 熊本県地域臨床実習支援事業の実施

県外に在住している熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につながることを目的として熊本県地域医療臨床実習支援事業(肥後ふるさと医学生実習支援事業)を平成30年度より実施しておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら、実施を見送ることとなりました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心をもつ医学部学生／募集人数：5名以内

【事業実施期間】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施見送らせていただきました。

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内(最低でも2日以上)／実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】

知事指定病院等のうち29の医療機関

【実習結果報告】

実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出

【事業の周知】

機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る

令和2年度 肥後ふるさと医学生実習支援事業

熊本県出身の医学生さんや、将来熊本県で従事することを考えている医学生さん
熊本県における地域医療の現状を学んでみませんか？
授業の交通費や実習期間中の旅費など、実習のために“ふるさと”へ帰ってくる経費を支援します。
県下各地28医療機関が、皆さんの訪問をお待ちしております。

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心をもつ医学部学生
募集人数：5名以内
対象期間：2020年 月 から 2021年 月 まで(予定)
実習期間：原則として1週間以内(最低でも2日以上)
実習内容：診療参加、診療見学等
実習先：熊本県内を除く県下28の公的医療機関(実習希望)
申し込み：実習を希望する日時の20日前までに、ホームページを参照のうえお申込みください。
その他：実習終了後、報告書を提出いただけます。

詳しくは熊本県地域医療支援機構ホームページ
<http://www.chikiryoo-kumamoto2020.org/index.php>
をご覧ください。
熊本県地域医療支援機構
☎ 096-373-5627

Ⅵ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

1. 年間報告書を作成し、市町村・医療機関等に配布したり、機構パンフレット、広報誌を関係者等に配布したりしました。
2. 例年知事指定病院である35病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行っております。今回はそのデータを更新するとともに、勤務医や患者の状況等について新たな項目を追加して調査を行いました。(P.5参照)

◆ 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

○ 第13回熊本県地域医療支援機構理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議にて行いました。結果としては、協議事項全てが承認されました。

【協議事項】

1. 令和2年度(2020年度)事業実績について
2. 令和3年度(2021年度)事業計画について
3. 令和3年度熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について

◆ 県医療行政・市町村との連携

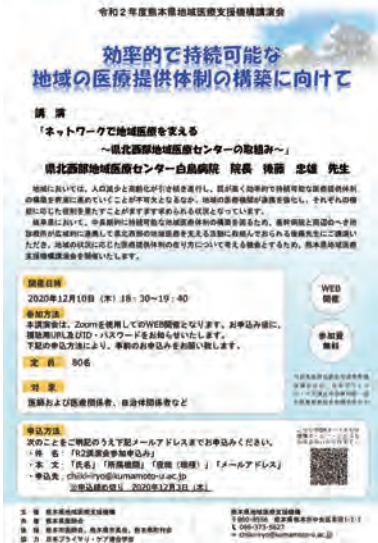
熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1回開催し、事業の進め方や政策推進について協議を行いました。(地域医療支援機構担当者連絡会議)

◆ 熊本大学医学部、県が設置する寄附講座、他の県委託業との連携

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏季実習をはじめ中止となった催しもありました。
- 学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。
- 熊本県医療勤務環境改善支援センターの運営会議にコーディネーターがオブザーバーとして参加するなど相互連携に努めました。
- 毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に医療勤務環境改善支援センターのセンター長、企画調整課長が出席、地域医療行政に関する情報共有を図りました。

Ⅶ その他

◆ 熊本県地域医療支援機構講演会



2020年12月10日(木) 18:30 ~ 19:30

令和2年度熊本県地域医療支援機構講演会

「効率的で持続可能な地域の医療提供体制の構築に向けて」

地域においては、人口減少と高齢化が引き続き進行しており、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の構築を着実に進めていくためにも、地域の医療機関が連携を強化してそれぞれの機能に応じた役割を果たすことがますます求められる状況となっています。

そのような中で、岐阜県において、地域医療を支える活動に取り組んでおられる、郡上市の県北西部地域医療センター国保白鳥病院院長後藤忠雄先生にご講演いただき、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について考える機会として、今回の講演会を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZOOMによるリモート開催となりました。

● 開会のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療支援センター センター長

松井 邦彦 先生

● 講演

岐阜県 県北西部地域医療センター長 兼県北西部地域医療センター国保白鳥病院院長

後藤 忠雄 先生

後藤先生からは、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について、これまでの地域医療を支えるネットワークの構築や人材育成、県北西部地域医療センター設立までの経緯など、岐阜県郡上市で中長期的に持続可能な地域医療体制を支える活動として、実践的な取り組みの経験と戦略、成果についてお話を頂き、興味深い講演内容でした。

● 閉会のあいさつ

熊本県健康福祉部健康局 医療政策課

三牧 芳浩 課長

◆ 知事の表敬訪問

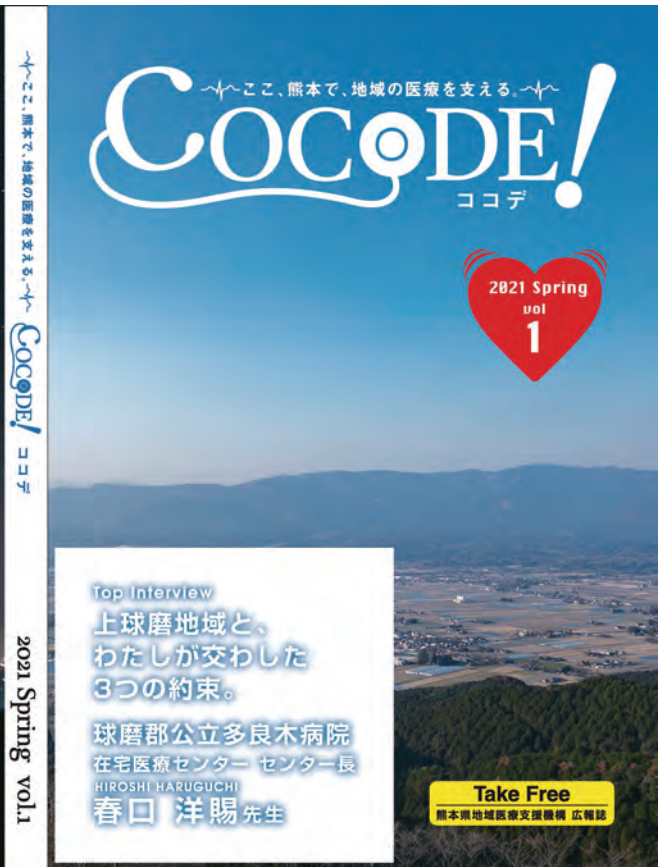
2021年3月29日(月)に、令和2年度卒業の熊本県医師修学資金貸与学生6年生5名が、熊本県庁を訪れ蒲島郁夫知事より激励の言葉を賜りました。また、6年生はこれから地域医療を担っていく医師としての将来の抱負等を一人ずつ述べました。



◆ 熊本県地域医療支援機構広報誌の発行

令和2年度、本機構の広報誌として、「COCODE」(ココデ)を初刊として発行しました。

「COCODE」は、熊本県内で活躍する医師などを通じて、医師を志す学生や、地域の皆さんに地域医療の魅力伝えるマガジンです。



地方で最先端の医療情報を知りたいですか？

松田先生：皆さん、初めまして。小国公立病院で総合診療医として働いています。今日は皆さんに会いに来たのを楽しみにしていました。どうぞよろしくお願いいたします。

西澤：よろしくお聞きします。私は高校時代に「日医国体」で実業の医療現場に接触したことで医師になりたいと思うようになりました。私のみることは天草なのですが、地域医療に興味したいという思いが日々強まっています。

M.S：私も社会貢献できる仕事したいという思いで、医師を目指しました。よろしくお聞きします。

西澤：早速質問なのですが、松田先生は、小国で医療を行っている中で、日進月歩する先端医療をどのように提供されているのでしょうか？やはり地方だと学びの機会は少ないですか？

松田：確かに地方の病院で仕事をしていると、かつては学びの機会も少なかったかもしれません。しかし、現在は新しい技術や世界の潮流などについては、インターネットでも十分情報が入りますし、ウェブファンレンスが充実しているので、特に情報不足であるということはありません。私も臨床で悩んだり

興味のある症例に関しては、積極的に情報収集をしています。

すべては自分のやる気次第。積極的に学びたいという気持ちがあれば、情報はあまり関係ないと思います。

書籍の判断ができる医師になるために

M.S：臨床の面においても地域の病院では、限られた医療資源で患者さんを診ていくことになると思います。その辺のむずかしさはありますか？

松田：そうですね。大きい病院だとすぐできる検査も、地域の病院は医療資源が乏しくてなかなかできないという側面があるかと思うます。そのようなときにこの方はすでに質問したほうがいいのか「大きい病院に申し込んだ方がいいのか」などを主治医として判断しなければなりません。初期研修はたいへん大きな病院でするので、そのような決断を迫られるシチュエーションは少ないかと思いますが、地方の病院ではこのような視点で患者さんを見なければならぬということに置きながら、初期研修期間を過ごされると、今後とも役に立つと思いますよ。

“人”を診ることで最高の医療を提供する

西澤：先生は総合診療医以外の専門医に興味を持たれたことはありますか？さまざまな専門医の先生と対峙させていたかどうかは最新の研究してあるかどうかで人を見れば先生の学術を「なんだ」とかおっしゃって、「すごいいいねー」とか言っちゃうんですけど(笑)。

松田：私は球磨郡多良木町の出身なので、最初から総合診療医として地域医療に従事したいという思いで医療の道を選びました。でも、いろんな診療科を回っているとどこもやりがいがあるし魅力的だとも思います。ただ実際に総合診療医としてやってみると、学生の時に想像していた以上にすごくやりがいがあると感じます。

M.S：たとえはどうかというところややりがいを感じますか？

松田：患者さんや高い医療の良薬で診る力はもちろんのこと、家族や生活習慣、また地域などさまざまな周りの状況を見極めながら、最高の医療を提供していくことが求められるんです。もちろん一人一人の力でできませんから、在宅医療や集約のシステムなど、地域のリソースを活用して医療体制を構築するな

ど、患者さんにベストの医療をチームで提供することが求められます。

患者さんやその家族としっかりと向き合い信頼される医師になりたいという思いがさらに深まりました。

人間力を磨き、信頼される医師を目指せ!

西澤：松田先生とお話させていただき、医学的な知識はもちろん、患者さんやその家族としっかりと向き合い信頼される医師になりたいという思いがさらに深まりました。

M.S：私もです！学んだ知識や技術を生かし、患者さんの気持ちに寄り添えるような医師になりたいと思います。ありがとうございます！

松田：総合診療医は、医学的な知識はもちろんですが、人間力もとても大切だと感じます。学生時代はバドミントンや部活などいろいろな経験を積んでください。人間としても成長することで信頼される医師になれると思いますよ。頑張ってくださいね!



Ⅶ 女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー(啓発活動)を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

◆ 相談件数

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日まで)の相談件数は、総計33件(対面5件、電話7件、メール13件)でした。

▼相談内容の内訳(延べ相談数) 令和2年4月1日～令和3年3月31日現在

お留守番医師制度について	2件	復職相談	1件
働くこと働き方について	8件	メンター制度について	1件
求人との問い合わせ	6件	同僚・医局の医師について	2件
保育施設について	3件	子育てについて	0件
支援制度についての問い合わせ	5件	社会保障等について	1件
ネットワークづくり	2件	マタニティ白衣・パンツ	2件

今年度は「働くこと働き方について」「求人」に関する問い合わせの相談が多い傾向でした。

◆ 復職支援(お留守番医師制度)

週1回(場合によっては月1回も可能)から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。

お留守番医師制度は、かかりつけ医が訪問診療に行く間の外来業務(お留守番医師)を復職を希望している先生方に担っていただく制度です。

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関(現在20医療機関)と連携しています(左下図)。

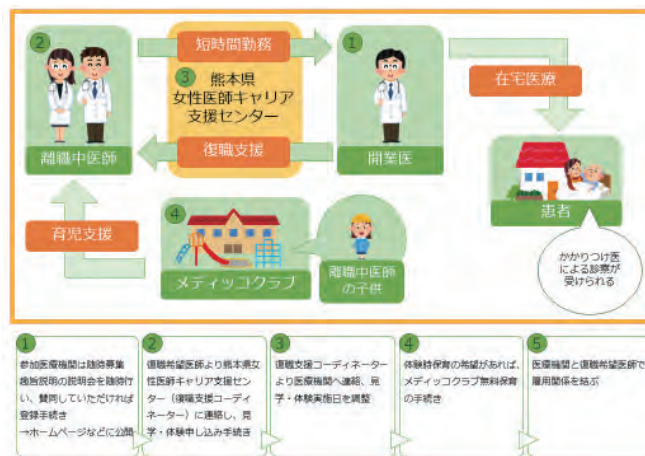
▼お留守番医師制度に加入している医療機関
(2021年3月31日時点)

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明牛橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池郡市医師会立病院
宇城市	中村医院

〈離職中の先生方(男性医師も利用可能)〉

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受けて在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本県医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

〈手続きの流れ〉



今年度のお留守番医師制度の体験者はいらっしゃいませんでしたが、平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせ7名です。

現在2名の医師が継続されています。

〈診療所の先生方〉

在宅医療に取り組みながら復職支援をすることができます。在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです(右図)。

○ お留守番医師制度を利用し復職された女性医師インタビュー(2020年12月14日)

*インタビュー全文は、熊本県女性医師キャリア支援センターホームページをご覧ください。

針本聡子先生(お留守番医師制度利用期間：2019年2月12日～2020年8月31日まで)



(※インタビュー映像は、令和2年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナーにおいて、お留守番医師制度利用者の事例として紹介させていただきました。)

Q お留守番医師制度に参加していただきましたが、熊本に来られるまではどのように働かれていたのですか？

平成13年卒で、ずっと関東の大学病院で消化器内科医として勤務していました。平成25年に出産し、その後お休みをして、主人の転勤のため、島根県の病院で胃カメラだけのアルバイトをしておりました。熊本への転勤が平成30年で、熊本市医師会のホームページで女性医師支援のバナーを見つけてアプローチしました。

Q 当センターのホームページに医療機関の情報も載せていましたが、どのように医療機関を選ばれましたか？

勤務先の病院を決めたのは、センターに面談に伺ってご紹介いただいた形でした。車の運転に自信がなく、また、土地勘が無かったので、掲載されている病院がどれだけ近いか、遠いか、どんな病院がよく分かっていなかったの、直接伺って地図を広げて相談しようと思っていました。

Q お留守番医師制度の初めの体験日はどうだったですか？

安心しました。何より、今まで外来というと専門外来が主でしたので、普通の外来でちゃんとお仕事ができるのだろうかという不安もございました。そこで1回体験してみることによって、「あ、これだったら出来るかな。」と。そこでもしもの時は循環器や脳神経外科の先生が相談に乗って下さるという事も含めてですね、「良かったな。」と言う風に、仕事をする自信に繋がって、仕事を始める勇気が湧いたというか、自信に繋がったと思います。

Q コーディネーターと定期的に連絡を取り合っていましたか、どうだったですか？

いい病院で、困った事はなかったのですが、働いてみないと分からない事って色々あると思うんです。そういった時に自分から、病院に難しいとか辞めたいとか、そこまでいなくても何か交渉するというのはやり辛かったり、そういう事もあると思うんですね、そんな中、間を取り持っていただけるというのは凄く安心だと思えます。

◆ マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

**マタニティ白衣
マタニティパンツ**
貸し出しをしています。

無料貸し出し

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、妊娠中の医師にマタニティ白衣とマタニティパンツの貸し出しをしています。貸し出しの対象は熊本県内に在住の妊娠中の医師で、非常勤医師や研修医もOKです。

体型の変化に対応

動きやすさを重視

すっきりとしたシルエット

熊本県女性医師キャリア支援センター
Kumamoto women's career support center for women doctors

詳しくは裏面をご覧ください。

マタニティ白衣について

- サイズはSとMがあります。
- 胸元、腰元にアジャスターがあり調節ができます。

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	90	112	38	51
M	95	116	39	51

アジャスター

アジャスター

マタニティパンツについて

- サイズはMのみです。
- 腰元にアジャスターがあり調節ができます。
- 色はネイビーのみです。

サイズ	腰囲	ヒップ	股上	股下
M	85~100	102	27	68

アジャスター

今年度の利用者は2名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと考えています。

＜利用者の感想＞

・お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もあまりお腹が目立たなかったようでした。

◆ 短時間勤務

短時間勤務制度の利用希望があった場合、専任医師と復職支援コーディネーターが代理で病院管理者もしくは診療科部長に相談することになっています。短時間勤務制度を応援してくれる勤務先を拡充する目的で、昨年度は熊本大学病院コーディネーターの会に協力いただき各医局に短時間勤務に関するアンケートを行いました。今年度は熊本県内100床以上の病院の管理者及び各診療科の部長アンケートを行い、短時間勤務制度を応援する診療科と応援メッセージを冊子にまとめウェブサイト公開することになっています。

◆ 育児支援

昨年度はそよう病院「子育て勉強会」のコーディネート協力などを通して、院内で子育てを援助する仕組み「そよ風サークル」の設立に向けた必要な支援を行いました。今年度は、その設立に尽力された女性

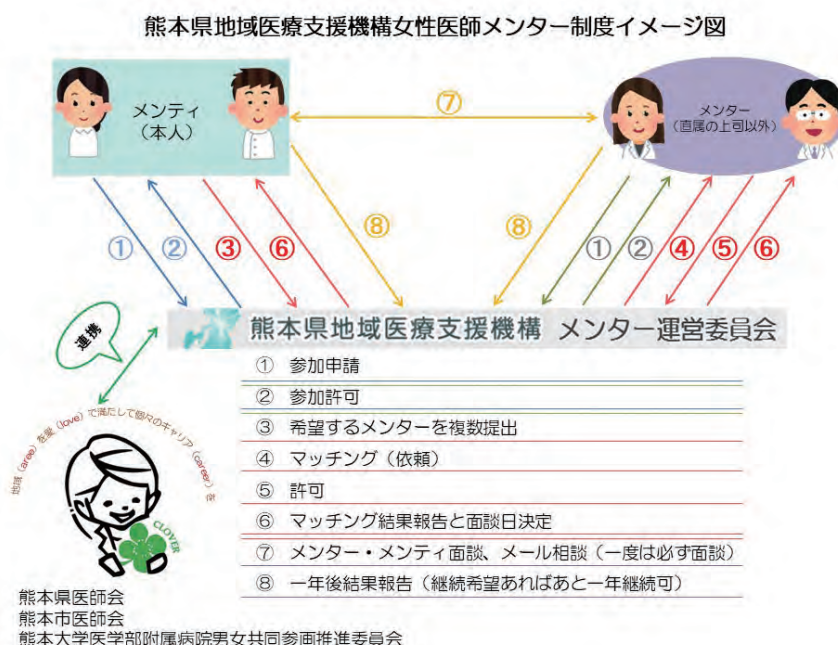
医師が現在勤務されている阿蘇郡小国町の小国公立病院において、「地域で活躍する医療人のための持続可能な育児支援システムの構築」について意見交換会を開催しました。

- 日時：令和2年7月27日(月) 17：15～18：30
- 場所：小国公立病院
- 内容：育児支援システムの趣旨・取り組みについて
 持続可能な育児支援システムの構築について具体的な取り組み(そよう病院の例)
 小国公立病院のスタッフの状況(周囲の保育園や学童保育について)
 育児支援・介護に関する課題
 若手医療人の育成

◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

現在、メンターとして29名の男女医師が登録しており、今年度はメンティとして1名の女性医師が登録されました。



毎年、メンター自身のスキルアップを目的に「メンター連絡会議」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催することができませんでした。そのため、今年度は地域で働く女性医師を対象にメンター・メンティ交流会を4回開催し、8名の医師にご参加いただきました。

日時	地域	開催方法	参加者
第1回 令和2年12月9日(水)16時～	多良木	多良木病院(対面)	1名
第2回 令和2年12月18日(金)19時～	阿蘇地域	ZOOM	3名
第3回 令和2年12月23日(木)16時～	天草地域	ZOOM	1名
第4回 令和2年12月23日(木)18時～	天草地域	ZOOM	3名

地域で働く中で困っていることや、今後のキャリアの事、課題に思っている事など交流会を通してうかがった内容は県の担当者と情報共有しました。また、交流会後に1名の先生がメンティに登録されました。

今後も女性医師が働きやすい、安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図れるよう相談体制や環境作りを進めていきたいと思っております。

◆ クローバーセミナー



令和3年2月16日(火) 19:00～20:40 Web開催
 熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー
 「キャリア支援と選ばれる職場づくり」

クローバーの会(熊本県医療人キャリアサポート)では、女性医師キャリア支援の観点から、男女共同参画推進活動にも積極的に取り組んでいます。

今回のセミナーでは、熊本県における取り組みをご紹介しますとともに、お留守番医師制度を利用された針本先生の体験談、現場復帰復職支援プログラムを基幹病院で作成された武會先生、男性医療人パパの会「ペンギンズ」を立ち上げられた中田先生より取り組みについて先生方にご講演いただきました。

参加者：40名

●開催の挨拶

熊本県地域医療支援機構理事
 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授
 地域医療支援センター 副センター長
 谷口 純一 先生



●クローバーの会活動報告

国立病院機構熊本医療センター院長
 熊本県医師会男女共同参画担当理事
 クローバーの会会員
 高橋 毅 先生

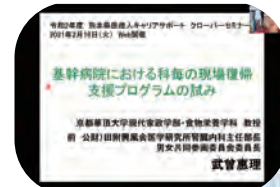


●事例紹介

～お留守番医師制度～
 針本 聡子 先生

●基幹病院における科毎の現場復帰支援プログラムの試み

京都華頂大学 現代家政学部・食物栄養学科 教授
 前(公財)田附興風会医学研究所北野病院 腎臓内科主任部長
 武會 恵理 先生



●大学病院で男性医療人の会『ペンギンズ』を立ち上げて

～ボトムアップを目指して～
 大分大学医学部附属病院 腎臓内科 特任助教
 女性医療人キャリア支援センター 副センター長
 中田 健 先生



●閉会の挨拶

熊本大学病院男女共同参画推進委員会 委員長
 熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座 教授
 中村 公俊 先生



<アンケートまとめ>

アンケート回答数：21名

内訳…男性：10名 女性：10名 不明：1名

医師：16名 看護師：1名 医療関係者：4名

Q 家庭と仕事の両立に葛藤を感じたことはありますか

ある：13名 ない：8名

～葛藤があると感じた方の声～

- 夕方勉強会があるのに、子供たちがご飯を待っている。勉強会に出ずに家に帰った。
- 仕事に専念し家庭をかえりみなかった。
- 子育て時期の仕事の継続、大学病院で生後6か月での当直開始は大変だった。
- 家族旅行中にも切り上げて帰院したこともしばしば。
- 昔の事で忘れてしまいましたが、かなり妻に負担をかけたと思います。
- 育児と介護が同時に重なったときは、ワークライフバランスを取るのが困難であった。
- キャリアアップの中断、子供の送迎、子供が病気の時の対応
- 夫が多忙な科であることは承知の上で結婚し、家庭と仕事の両立を考えて、マイナー科を選択。確かに定時には帰れますが、「家庭」に対する考えが甘かった。「家庭」も仕事。「家庭」の最高責任者および業務遂行者は自分なので、一人科長みたいな気分。睡眠時間以外はすべて仕事。ブラックなダブルワークです。夫は現実、家庭にいないので、物理的に家事分担、育児分担は不可能と分かっているものの、ストレスが蓄積していて、今年から管理職になり、仕事内容や責任が劇的に増えたのに、家事育児はほとんど担っており、常に疲れていて、限界だ、いやまだいける、と葛藤を繰り返しています。
- 子供が病気になった時、仕事と家事それぞれに問題が重なった時など両立に葛藤を感じました。幸い周囲に支えられて何とか続けてこられました。
- 介助を必要とする高齢の親との同居
- 子育てと介護が重なったとき

Q 職場で取り組んでいるもしくは今後必要な両立のための工夫(複数回答可)

- 上司の積極的な有給休暇の利用(1名)
- 院内保育所、託児所(6名)
- 病児保育(2名)
- 短時間勤務制度(7名)
- オンライン在宅勤務(1名)
- 職場でのサポート体制(1名)
- 男性の育児休暇取得(1名)
- 管理者教育(1名)
- 保育園との提携(1名)
- シッターや家事代行業の斡旋(1名)
- ケースバイケースで工夫は異なると思います。(1名)

Q 今後セミナーで聞きたい話(複数回答可)

- 専門医制度(4名)
- 他県のキャリア支援制度(13名)
- 子育て(1名)
- 休職経験者(4名)
- 留学経験者(3名)
- 行政(7名)

- 臨床(7名)
- 他職種での取り組み(1名)
- コーチング、リーダーシップ研修(7名)
- キャリアプラン(1名)
- 研究者(2名)
- 論文の書き方(2名)

Q 男女共同参画に関する支援について期待する事(複数回答可)

- ロールモデルの紹介(6名)
- 保育・学童支援(5名)
- 休職中の身分保障(4名)
- 復職支援(再教育)(勤務先紹介)(9名)
- 男性の意識改革(9名)
- 女性の意識改革(5名)
- 家事支援(2名)
- 無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)への気づき(1名)

Q セミナーについての意見

- 他県の色々な取り組みを聞いて、非常に勉強になった。
- ペンギンズなどの活動を知ることができました。
- 男性の若手の意見はおもしろかったです。
- 思ったよりアットホームな会でした。
- 周囲の協力による環境整備や本人の意思の重要性を再認識しました。
- 「男性医療人の会」というものの存在に驚きました。「Clover」も「ペンギンズ」もネーミングがいいですね。
- 楽しく拝見しました。自宅だったので妻も一緒にみて喜んでいました。制度的なものできていかないといけないでしょうが、女性蔑視の風土は根強いでしょう。
- 全国各地からの参加があり、様々な意見など聞かれ参考になりました。
- セミナーの継続・発展に期待しています。
- 歯科医師会でも女性歯科医師支援にとりかかっているが、まだ具体性に欠けるので、今回のセミナーを参考に進めていきたい
- 育児中の女性医師をいかに確保するか、大変参考になりました。
- 大分医大の男性医師からの発信は、時代の変化を感じて、大変興味深かったです。テーマとして取り上げられていただき良かったと思います。
- とても参考になるお話ばかりでした。ありがとうございました。
- 今後の継続を期待しています。

◆ 学生への啓発活動

- 1学年講義：令和2年6月15日 医学概論「男女共同参画」
- 4学年講義：令和2年7月13日 医療と社会Ⅰ「男女共同参画」オンライン講義
- 熊本県医師会主催 令和2年度 医学生・研修医をサポートするための会「地域医療とワークライフ・シナジー」

◆ 広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営
- ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護情報」などを掲載しています。
- Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- 今年度はマタニティ白衣・マタニティパンツのチラシを1000部作成(下記参照)、熊本大学病院男女共同参画コーディネーターの会、熊本大学病院各診療科、相談者や熊本県内の医療機関へ配布しました。



◆ その他セミナー



(共催)

医学生・研修医をサポートするための会セミナー

「地域医療とワークライフ・シナジー」

2021年1月27日(水) 18：30～ 20：30 Web開催(地域医療ゼミとの合同セッション)

参加者：36名(うち医学部生：16名)